



山形県感染症発生動向調査

山形県感染症情報センター(山形県衛生研究所)
TEL.023-627-1109, FAX023-641-7486
URL <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/>
2016年6月14日 発行

平成28年第23週(6月6日~6月12日)

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少 ※ :警報レベル :注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県)
	第22週	第22週	第23週	増減	第22週	第23週	増減	第22週	第23週	増減	第22週	第23週	増減	第22週	第23週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	862 0.17	5 0.10	1 0.02	▼	4 0.20		▼					1 0.10	△	1 0.08		▼	13926
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	268 0.08																45
咽頭結膜熱	2367 0.75	21 0.70	25 0.83	△	7 0.54	14 1.08	△	2 0.67	2 0.67		11 1.83	7 1.17	▼	1 0.13	2 0.25	△	368
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	9212 2.92	146 4.87	161 5.37	▲	93 7.15	91 7.00	▽	2 0.67	2 0.67		30 5.00	39 6.50	▲	21 2.63	29 3.63	▲	4063
感染性胃腸炎	18782 5.95	237 7.90	200 6.67	▽	107 8.23	86 6.62	▽	5 1.67	5 1.67		43 7.17	48 8.00	△	82 10.25	61 7.63	▽	5258
水痘	1345 0.43	5 0.17	10 0.33	△	2 0.15	2 0.15		1 0.33	1 0.33		1 0.17		▼	1 0.13	7 0.88	△	264
手足口病	592 0.19	1 0.03	4 0.13	△	1 0.08	2 0.15	△		1 0.33	△					1 0.13	△	23
伝染性紅斑	1111 0.35	37 1.23	36 1.20	▼	9 0.69	13 1.00	△	13 4.33	4 1.33	▽	6 1.00	12 2.00	△	9 1.13	7 0.88	▽	1269
突発性発しん	1985 0.63	14 0.47	14 0.47		2 0.15	2 0.15			3 1.00	△	7 1.17	3 0.50	▼	5 0.63	6 0.75	△	438
百日咳	82 0.03																7
ヘルパンギーナ	1325 0.42	1 0.03	4 0.13	△	1 0.08	2 0.15	▲					2 0.33	△				7
流行性耳下腺炎	3489 1.11	82 2.73	66 2.20	▽	10 0.77	1 0.08	▽	7 2.33	4 1.33	▼	58 9.67	54 9.00	▽	7 0.88	7 0.88		1515
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	7 0.01																
流行性角結膜炎	457 0.66	2 0.25	1 0.13	▽	2 0.50		▽		1 1.00	△							28
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	97 0.21																9
クラミジア肺炎	4 0.01																4
マイコプラズマ肺炎	259 0.55		2 0.20	△		1 0.25	△								1 0.33	△	47
細菌性髄膜炎	12 0.03																2
無菌性髄膜炎	24 0.05																4

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
結核	患者			2		
E型肝炎	患者	1				※第22週追加報告分。
つつが虫病	患者				1	
梅毒	患者	1				
播種性クリプトコックス症	患者				1	※第20週追加報告分。

<通信欄>

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

<定点把握感染症 報告患者数 年齢別>

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ								1							
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79	80歳～									合計
															1
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症															
咽頭結膜熱	1	2	11	2	3	3	1			1					25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			3	7	9	18	28	22	14	9	16	32	1	2	161
感染性胃腸炎		20	29	17	24	27	17	13	7	11	9	21		5	200
水痘		1	2		2		2	2	1						10
手足口病		1	1		1		1								4
伝染性紅斑			1		3	6	12	5	2	3	2	1		1	36
突発性発しん		3	10		1										14
百日咳															
ヘルパンギーナ		1	1	1	1										4
流行性耳下腺炎		1	3	8	9	13	9	6	5	5	1	6			66

<平成28年5月 月報>

2016年6月14日 作成

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～5月
	4月	5月	4月	5月	4月	5月	4月	5月	4月	5月	
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)		
性器クラミジア感染症	報告数 18	24	4	5	12	14	2	3		2	97
	定点当り 1.80	2.40	1.00	1.25	12.00	14.00	1.00	1.50		0.67	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数 9	9	3	3	1	2	3	2	2	2	30
	定点当り 0.90	0.90	0.75	0.75	1.00	2.00	1.50	1.00	0.67	0.67	
尖圭コンジローマ	報告数 1	3		3					1		15
	定点当り 0.10	0.30		0.75					0.33		
淋菌感染症	報告数	5		1				2		2	9
	定点当り	0.50		0.25				1.00		0.67	
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)		
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数 11	4					1	1	10	3	33
	定点当り 1.10	0.40					0.50	0.50	3.33	1.00	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数 16	16	7	5	2	1		3	7	7	94
	定点当り 1.60	1.60	1.75	1.25	2.00	1.00		1.50	2.33	2.33	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数										
	定点当り										

<トピックス>

【つつが虫病情報】

つつが虫の患者が、第23週に報告されています。
つつが虫は、病原体を有するツツガムシの幼虫に刺されて感染します。
春から初夏にかけて多く、また秋にも発生がみられますので、注意が必要です。

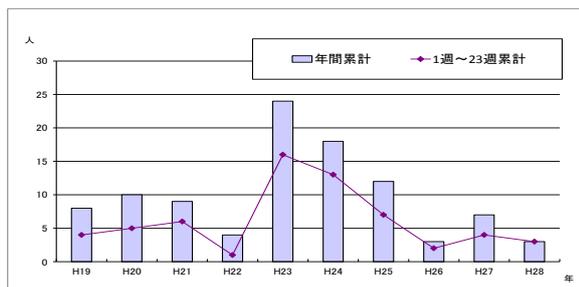
【症状】

発熱(38～40℃)、発疹、ツツガムシ幼虫の刺し口が見られることが特徴です。これらの症状は、ツツガムシ幼虫に刺されてから5～14日後にみられます。

【予防法】

- ツツガムシは、田畑、山林、やぶ、河川敷、草原などに生息しています。これらの場所に立ち入るときは、次のようなことを心がけることが大切です。
- ①長袖、長ズボン、長靴、手袋などを着用し、素肌をできるだけ露出しない。
 - ②ダニ忌避剤、防虫剤を衣服に散布する。
 - ③なるべく草むらに直接座らない。
 - ④帰宅したら早めに入浴し、ツツガムシ幼虫を洗い流す。

【山形県の年間報告数 ※2016年第23週現在の状況】



【伝染性紅斑(リンゴ病)情報】

伝染性紅斑の定点あたり報告数が、最上地区(1.3人)、置賜地区(2.0人)で、引続き警報レベルとなっています。
【警報開始基準値:2人 警報終息基準値:1人(未満)】

伝染性紅斑とは

ヒトパルボウイルスB19に感染することによっておこる感染症です。主に小児にみられる疾患ですが、成人もかかる場合があります。

【症状】

10～20日の潜伏期の後、両頬に鮮明な赤い発疹が現れ(写真1)、続いて手足にもレース様の発疹が現れます。なお、頬に発疹が現れる7～10日前に、微熱や風邪の様な症状がみられることが多く、この時期にウイルス排出量が最も多くなります。発疹が現れた頃にはウイルス量が低下し、ほとんど感染力は消失しています。
予後は通常良好ですが、妊婦が感染した場合、胎児水腫または流産を起こすことがあるので注意が必要です。

【予防法】

伝染性紅斑にはワクチンはありません。また、感染力のある時期には特徴的な症状を示さないため、日頃からの手洗い・うがいが重要です。



写真1:両頬の発疹

(国立感染症研究所HPより)

※参考URL:IDWR 感染症の話 伝染性紅斑

http://idsc.nih.gov.jp/idwr/kansen/k04_23.html